

メンバー寄稿

世界の富士山へ

[国土愛・地域愛・家族愛]

L. 深井 平次

今、日本一の富士山が世界遺産に登録され国民、1人々が日本の富士山から世界の富士山へと思いを感じている昨今、地域では感動と感激、歓迎を受け、経済効果に希望と期待感を持ち、国の宝、地域の宝として私たち家族も、常に見守っていきたいと思います。

私は、毎年この富士山の雄大さに感動され富士五湖の内、山中湖にヘラ鮎釣りに足を運ぶ1人として、富士山を見ていると、自分の気持ちが大きく感じる。

これからも私達は、地元志津岡、山梨県の県民と共に富士山を愛し見守って行きたい。また当市は富士が見える市として、またライオンズメンバーとして環境保全に感心をもつ所であります。

新聞の立ち読み

L. 萩原 学

サラリーマンを辞めて10年になる。いまだに抜けられない癖が二つある。一仕事終わった後のビールと立って読む新聞である。25年も続けたのだから仕方がないのだろうが、今回はビールのことは置いて新聞のことについて書いてみる。

立って読む新聞とは、本屋での立ち読みではなくて通勤電車の中で読む新聞である。通勤はサラリーマンの宿命でまさに痛勤である。しかしこの時間は貴重な読書タイムであったことをこのごろ実感している。往復約二時間の電車の中は、混みかたで読む物を変えて読んだ。

まずは新聞で、当然大きく広げられないから、折り目正しく二つ折り、四つ折り、八つ折りと涙ぐましい努力をしながら、立って読むのである。そしてついに新聞が読めなくなると懐から新書または文庫本を出して今度は本を読むのだ。それも不可能となると諦めるしかない。

サラリーマンを辞めるとこの二時間を作り出すのが大変なのだ。当然、新聞も本も積読状態になる。本は買わなければ良いのだが新聞は毎日〃〃大量の広告とともに配達してくる。これを怠けて読まずにいるとアツという間にたまってしまう。これを読んだ、読まないなどと仕分けをしていると、いつの間にか立って読んでいる自分に家族から注意され気が付くのだ。困った習性である。